



# アクテジ

NO. 115

名古屋市演劇練習館機関紙

## エッセイ



「コロナと共に生きる」

川村ミチル

( 演出家・劇作家・俳優 )  
劇団そらのゆめ主宰

もう7回目だという波に幾度となく飲まれそうになりながら、ゆらゆら波間を漂っている。2020年2月から突然半年間公演が途絶えた。演劇だけで生きてきて30年余り。初めてぼっかり空いた穴のような時間を前に途方に暮れ、気力というものを失いそうになった。元々スケジュールがびっしりでないと落ち着かない性分である。この機に体を鍛える者、新作を稽古する者、勉強に励む者、中には「神様がくれたギフト」という殊勝な者まで現れたが、私はと言えば、神も仏もあるものかと、ただただやさぐれ、呆然とするだけだった。

酒を飲んでもグチってみても満たされない。三密の舞台とその空気の振動を観客と共有することでしか、私は生きられなかった。

2020年6月、顧問を務める劇団天白月夜の定期公演が危ぶまれるという事態になった。劇団天白月夜は演劇講座受講生から生まれた市民劇団である。誰でも入団できるが、サークル活動のようなつもりではない。常に社会に目を向け、新しいことに挑戦する志高い劇団であると思っている。その劇団の危機とあって一念発起、旧知の天野天街氏に演出を頼



劇団天白月夜「相思」  
2020年9月 天白文化小劇場にて

むことにした。多忙な天野氏も公演が中止となり身体が空いていたので二つ返事で引き受けてくれた。「役者同士の距離を2m取ること、近くでセリフを言うならマスク着用、向かい会う立ち位置は不可」等、およそ芝居をするなどしか取れない条件を全て逆手にとった芝居を創ろう。私は彼との話の中で細胞が甦るような興奮を覚えた。

そうして生まれたのが、9月公演のソーシャルディスタンスをもじった「相思～或るDEATH DANCE～」だ。当日を迎えるまでは、感染対策にこれでもかと気を遣い、日常生活の制限もしたが、全員PCR検査を受け陰性確認後、マスクを外すことが出来た。客席はほぼ満席、

待たれていたと感じた。館長や周囲の協力・理解も有難かった。

それから何度も危機は訪れたし、中止になった公演も数え切れない。しかし、もう不貞腐れて

はいない。太古の昔から歌い、舞い、語り合ってきた人類にとって、芝居が不要なはずはないのだから。

これを書いている今も過去最大の感染者数を更新し続けているが、安心安全にどうやったら可能かを考えながら、コロナと共に生きていくのだ。自分で選んだ道だもの。

一般公演が目白押しである。9月2～4日はちくさ座にて演出者協会主催演劇CAMP劇団そらのゆめの「宮澤賢治のたからばこ」、翌週9月10、11日には天白文化小劇場にて、劇団天白月夜第4回定期公演「ほたる館物語」、9月23日には各務原文化ホールにて劇団そらのゆめミュージカル「ジャックと豆の木」、10月9日は愛西市文化会館で同じく「ジャックと豆の木」。

来年1月14、15日には芸創センターにて、脚本演出を担当するANET30周年記念事業「雨あがりの宴」という大舞台も控えている。

演劇は常に時代と共にある。精一杯足掻いて、この時代ならではの作品を創り続けたい。



劇団天白月夜  
『月と森のソネット2021』  
2021年10月  
天白文化小劇場にて

## トピックス

### 「50周年を祝う」

柴田 頼克 (セツ寺企画代表)



僕が初めてセツ寺共同スタジオに行ったのは、大学1年の時のチラシの折り込みでした。

古い倉庫だと思った、その小さい扉を、先輩が何気なく入っていったのを鮮明におぼえています。そんな古い倉庫だと思ったセツ寺共同スタジオが今年で50年を迎えます。半世紀です。いろんな人たちの、いろんな想いが詰まった劇場になっています。

そこで、こけら落とし公演で上演された『夢の肉弾三勇士』をやろうと、50周年記念公演の企画がたちあがりました。最初は4人しかいなかった運営メンバーも今では20人を超え、関わってもらっているキャスト、スタッフは100人を超えました。

去年の3月には、コロナで直接会えない

ので原作をそのままボイスドラマという形で作品を創り、今年5月には、これからの演劇界を見据えて高校生を中心に抜粋公演をしました。さらに過去にセツ寺共同スタジオで上演した公演チラシをインスタグラムにて紹介しています。そして、11月に現代版に脚色をして本公演をやります。いま、絶賛稽古をしながら奮闘しています。

この企画が始まって、いろんな人に声を掛けました。中日新聞に記事が載った時は、多くの方から声を掛けていただきました。コロナという情勢のなか、関わるのが難しい人もいますが、セツ寺共同スタジオの50周年に恥じない企画にしますので、ぜひ本公演を観にきて、50周年を一緒に祝ってもらえればうれしい限りです。



セツ寺共同スタジオ

## アクテノン・シャワー

### ■ 「アクテノン・フェスティバル」のご案内

日頃、アクテノンを利用している皆さんと名古屋音楽大学の出演者総勢19組が、野外劇場で演劇・音楽・舞踊などのステージを繰り広げます。秋の日だまりの中、散歩がてらに芸術の秋を楽しんでみませんか。ぜひ皆様お誘い合わせのうえ、ご来場ください。

日 時：令和4年10月8日(土)・9日(日)  
各日とも開演13:00(雨天中止)



※出演団体・内容等につきましては演劇練習館までお問い合わせください。

入場料：無料

運 営：アクテノン・フェスティバルプロジェクトチーム

主 催：(公財)名古屋市文化振興事業団

共 催：名古屋市中村区役所

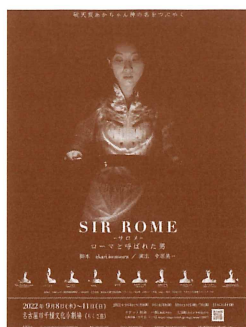
お  
願  
い

入場時は、マスク着用など感染症予防対策にご協力いただきます。また客席間は十分な距離をとるため、席数に限りがあります。駐車場がありませんので公共交通機関をご利用ください。

## アクテノン利用団体紹介

① 発足年 ② 団員数 ③ 主な上演作品/会場(上演年) ④ 連絡先

### 演劇 破天荒あかちゃん神の名をつぶやく



2016年に第一回公演のため結成、2017年に第一回公演を迎えた固定の役者を持たない舞台表現団体です。

古典を新解釈し、必要に応じてダンスや身体表現を加えながら上演しています。本年9月には、第一回公演で上演した「SIR ROME -サロメ-ローマと呼ばれた男」を新演出で上演します。2022年9月8日～9月11日、千種文化小劇場、全5回公演。脚本 akari.iwamura、演出 中居晃一、出演 未彩紀、源千晃、松竹亭ごみ箱、他。

- ①2016年 ②2名
- ③「嘘を吐く人-トリスタンとイズー物語-」/新栄TORIDE('17年) 『SIR ROME -サロメ-ローマと呼ばれた男』/ナンジャラレ('17年)
- ④岩村明里  
TEL:070-5253-4429  
E-mail:crazybaby.crazycrazy@gmail.com

読者の皆様へ

機関紙『アクテノン』は1996年に創刊し、休むことなく本紙115号まで発行して参りましたが、2022年11月からは『アクテノン通信』としてリニューアルして演劇情報などをお伝えしていきます。これまで手に取ってくださった皆様、紙面にご寄稿いただいた多くの方々、ご協力いただいた全ての方々へ深く感謝し、心から御礼申し上げます。より充実した内容を皆様に届けていけるよう一層努めますので、今後ともご愛読いただければ幸いです。



編集発行/令和4年8月25日(年4回)  
名古屋音楽大学 名古屋市中村区稲葉地町1-47  
TEL 052-413-6631 FAX 052-413-6632  
※この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。



「友の会」会員募集中!  
<http://www.bunka758.or.jp/>

施設からの  
情報を  
ご覧いた  
だけます!

